＊「ポレーシェ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。　№165　2018.05.31

＜「菜の花 花見会」に参加して＞

（LUSH ジャパン　細野 隆 ）

昨年同様、今年も「菜の花 花見会」に参加できたこと、感謝いたします。訪れる度、驚かせられる事ばかりですが、今回も栽培規模の拡大や搾油場の稼働など、新たな取り組みやチャレンジを伺い、つながりの広がりを強く感じました。

今年は、予期せぬことに「花見会」の前に「グリーン・オーシャン大賞」を受賞することができました。この受賞は、「南相馬農地再生協議会」様を中心とした地元を愛する方々、またそれを支える方々に対するものですから、活動をともにする身として、参加者の皆様に直接伝える事ができたことを大変嬉しく思います。

この活動には、地域再生に向け、幅広い業種の民間企業や、政府・大学などの学術的な専門家などが関わり、幅広い世代によって形成されている非常に多様性のある関係が構築されていて、それらがスピーディに実践形式で積み上げられている意義深いものですが、今なお現在進行形でそれらのつながりが広がっていることに更なる価値を感じ、私も気が引き締まる思いでした。

今年の「花見会」のように、来年もまたひとりでも多くの笑顔に出会えるように、私たち Lush も引き続き、「People（個と社会）」と「Planet（地球環境や自然循環）」そして「Profit（利益）」を軸に考え、Lush らしいアプローチで、「南相馬農地再生協議会」にとっても更に良い形になるような活動を、進めていきたいと思います。

〒460-0012　名古屋市中区千代田 5 丁目 11-33　ST プラザ鶴舞 5 階 B
NPO 法人　チェルノブイリ救援・中部
銀　　行　　名：**三菱 UFJ 銀行 高畑支店（店番号 297）**
口　座　番　号：**普通 1682863**
口　座　名　義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部　理事長　原 富男
郵　便　振　替：00880-7-108610
ＴＥＬ／ Ｆａｘ：052-228-6813（月･水･金 10:00 ～ 17:00）
ホームページ：http://www.chernobyl-chubu-jp.org

南相馬便り （神野 英樹）

＊「菜の花 花見会」開催！

4 月 28 日（土）10 時、門馬南相馬市長のご挨拶をキックオフとして、恒例の「菜の花 花見会」がスタート。LUSH ジャパン様・北芝電機様・カリタス様・相馬農業高校の生徒さん達をはじめとする、総勢 120 名の皆様にご参加いただき、太田生涯学習センターで行われた「昼食会＆交流会」の会場は、文字通り「満員御礼」となった。

参加者は、「復興浜団」が企画運営する「なのはな迷路」を楽しんだり、信田沢搾油所の視察をしたり、農地再生協議会の奥様チームが腕によりをかけて調理した料理を堪能した。

とりわけ、交流会の時間に行われた「相馬農業高校生」と「LUSH ジャパン」によるプレゼンは、期待通りの素晴らしい内容であり、参加者は皆、発表に聞き入っていた。福島大学の学生たちが「油菜ちゃん」の廃油を利用して作ったキャンドルや、参加者のリレートークも、それぞれに味があったと思う。

司会進行係の私は、一口も食べることができなかったため、料理の味の感想を述べられないのだが、「油菜ちゃん」を使った料理は、絶対に美味しかったに違いない。どのテーブルも、料理はきれいに完食となった。参加されたすべての皆様に感謝したい。

【秋の種まき会 !!】

9 月 22 日（土）10 時～15 時に決定！

今回参加できなかった皆様も、次回は是非…。

<「菜の花 花見会（2018 年 4 月 28 日）>

＊第 15 期「汚染マップ」完成！

4 月 14 日（土）・15 日（日）・21 日（土）・22 日（日）の 4 日間、第 15 回目の「測定隊」が予定通り実施された。前号でも紹介した通り、今回は「南相馬市」「浪江町」「富岡町」の測定を同時期に実施し、3 つのエリアが 1 枚の地図に納められた「合同マップ」が、わずか 1 ヶ月余りで（5 月 28 日に）刷り上がってきた。

更に、2 年前と今回のマップを 2 つ並べた「比較マップ」も完成し、目印となる施設名も明記されたので、興味深く見ていただくことができると自画自賛。まもなく各拠点に配布が始まる。乞うご期待！

【秋の測定隊 !!】

10 月 13 日（土）・14 日（日）＆ 20 日（土）・21 日（日）に決定!!

＊信田沢搾油所で搾った「油菜ちゃん」の品質良好！

信田沢搾油所の「試搾」第 1 号「油菜ちゃん」の品質検査結果が出た。

① ゲルマニウム半導体検出器による 48 時間測定（検出限界 0.01Bq/kg）で、「放射能ゼロ」（不検出）！

② 日本食品油脂検査協会による成分分析検査で、「トランス脂肪酸（悪玉脂肪酸）ゼロ」（不検出）！

良かった！ これで、ますます自信を持って「油菜ちゃん」をお薦めすることができる。

＊「全国植樹祭 ふくしま 2018」の記念品に、「油菜マヨ（1,100 個）」！

南相馬市役所から、「第 69 回 全国植樹祭ふくしま 2018（6 月 10 日開催）」にご招待した市民の皆様に、記念品（お土産）として「油菜マヨ（1,100 個！）を贈りたい」 …という、嬉しいご注文が舞い込んだ。ニワトリにエールを送りながら卵を確保し、見事、納入期日に完納することができた。なお、式典当日、天皇陛下ご一行様が会場に向かわれる沿道には、春蒔きの「菜の花」が満開でお迎えをする（･･･予定）。

通常総会とチェル救デーのご案内

日時：2018 年 6 月 9 日（土）午後 1 時 30 分～4 時 30 分

会場：ブラザーミュージアム

〈名古屋市瑞穂区塩入町 5-15　(052-824 -2227)〉

【アクセス】 名鉄名古屋本線(岡崎・豊橋方面)「堀田駅」下車。徒歩 2 分

名古屋市営地下鉄名城線「堀田駅」下車 1 番出口。徒歩 3 分

〈2018 年度通常総会〉 午後 1 時 30 分～2 時 30 分

〈チェル救デー〉 午後 2 時 45 分～4 時 30 分

■「南相馬の今」 神野英樹さんの報告

■「菜の花サミット in 南相馬」オープニングビデオ＆
ビデオ・ドキュメント 2017「黄色い花畑の未来」上映

この 1 年、ポレーシェ誌上で繰り返し、チェル救の厳しい財政事情をお伝えしてきました。そのたびに、皆さまから温かいカンパをいただき心より感謝いたします。

お陰さまで潤沢とは言えませんが、2018 年度も予算を組みスタートすることができます。

とはいえ、測定隊の資金は自転車操業、ウクライナの被災者は自ら倹約に取り組み、支援する側・される側が協調して、この難局に立ち向かっています。

チェル救デーは、昨年 10 月より、とどけ鳥、再生協議会のスタッフとして活躍している神野英樹さんの報告です。赴任後、搾油所の開所をはじめ獅子奮迅のごとく立ち回っている神野さんが見た「南相馬の今」です。

また、「菜の花サミット in 南相馬」のオープニングビデオなども初お披露目です。ぜひ総会にお越しください。

測定隊が行く

A さんのこと

（早矢仕　彩子）

放射線量測定の二日目。ドライバーは地元の人 A さんだった。電子たばこを機器に装填してシュパシュパと吸いながら地図を見、スマホを操作して運転中の A さんは忙しい。

私たちの今日の分担の測定場所は、海岸に平行に走る幹線道路の近くと、幹線道路から海側の地域の 29 地点である。目的地に着くと、測定器のボタンを押して一つを地面に置き、もう一つを左手に持って数字が止まるのを待つ。止まるまでの 5～6 分間が、私たちの大切な会話の時間だった。

「ああ、ヒバリが鳴いてるなあ。」「どこどこ？」「あの高いところ」「なんであんなに騒いでるの？　良い天気で気持ちが良いから？」「そういうときもあるけど、下に巣があってヒナがいるから、敵に襲われないように目をそらすための時もあるんですよ。」 ケーンケーンという雉の鳴き声が聞こえると、「いまは雉がのびのびしていますよ。誰も捕まえて食べないからね」と、にっこりする。車を運転中にも、「あ、ヤマガラだ」と、小鳥をめざとく見つける。「A さん鳥に詳しいんですね」「だって僕たちはずっとこういう鳥たちを見ながら大きくなったから。」 A さんはちょっと照れる。

「あの木を見てください、あそこに傷がついているでしょう。」 A さんが指さす大きな木の地上 12，3 メートルの所に、白っぽい傷が横に数本ついている。

「あそこまで津波が来たんです。」「ああ。流れてきた物で傷がついた？」「そうです。欅は丈夫な木なので、残ってるのは欅が多いんです。松や杉は流されてしまったけど。」「Google map には、こんなふうに集落が書いてあるけど、皆流されて集落の場所には今は何にもないですね。僕も震災後ボランティアで、このあたりの溝の泥を掘り出すのをやりましたけど、全部波で持って行かれたところです。」

山の方に行くと、「ここらの造成地は市が買い上げて、太陽光発電所を作る計画があった所ですけど、出資者と話がまとまらず頓挫してるんです。震災のあと、役所も人々も“やってもらうこと”に慣れてしまってよくない。やってもらうのが当たり前じゃないんです。」

「避難所でもボランティアをしましたけど、皆がだんだん贅沢になってきて、こんなまずいパン食べられるかといって残すので、僕それ集めてきて野良犬にやってたんですよ。僕の家の近くの山に、車の窓からポンと犬を捨てていく人が結構いて･･･。でもだんだん増えて目立ったんでしょうね。あるとき野犬狩りで全部捕まえられて、そのとき一匹だけ縁の下に隠れていて残ったのが、今僕が飼ってる犬なんです。」

無駄なことはあまり言わないけれど、福島の自然をこよなく愛し、動物にも人々にもやさしい、そして正義感の強い A さん。「親父の昼飯を用意しなくちゃいけないからこれで。」と、測定が終わると急いで帰って行く後ろ姿に、福島人を見た思いがした。

南相馬市空間線量率測定に参加して

（和泉　逸平）

今回、初めて空間線量率測定に参加させてもらいました。私は愛媛県の出身で、サッカーJ リーグ愛媛 FC が、南相馬市で活動するマーチングバンド Seeds+を、試合前イベントに招待したことでご縁が生まれました。愛媛 FC と Seeds+の交流は、その後 J リーグ後

援東日本大震災復興支援映画となり、ロンドン及びニースの両国際映画祭でも受賞しました。この映画の中に、南相馬市の空間線量マップが出てきます。その後、仕事のご縁から双葉屋旅館さんに宿泊するようになり、このマップがチェルノブイリ救援・中部及び多くのボランティアの皆様により作成されていることを知りました。ぜひ一度はと思っていたところ、今回小林ご夫妻に声を掛けていただき参加が叶いました。

1日目（14日）は小高区、2日目（21日）は浪江町、3日目（22日）は鹿島区を担当させていただきました。引き継がれてきた地図と線量計を預かり、車に乗り込み、日替わりのペアで目標点を探しながら測定していくこの活動は、貴重な経験となりました。ペアになった方々の、チェルノブイリ支援も含めた活動に対する思いは、東日本大震災ですら他人事になってしまっている多くの方に知ってもらいたいと思いました。

今年6月ロシアで開催されるサッカーW杯に、南相馬市の中学生3名を招待します。サッカーのサポーターにも、このチェルノブイリ救援・中部の活動を知ってもらえるよう、私からも発信させてもらいたいと思います。引き続きよろしくお願いいたします

初めて放射線測定ボランティアに参加して（上杉　千恵美）

4月に友人に誘われて、気軽に南相馬市の放射線測定ボランティアに参加しました。福島で放射能測定の活動をしている団体があることを知らなかった私にとって、この4日間は驚きの連続でした。またチェルノブイリ支援団体の方々の活動も今回初めて知りました。

まず南相馬市「とどけ鳥」の放射線測定活動に2日間参加して、街中での数値は低いのに草地や池の近くは未だに高めの数値を示すことに驚きました。放射能汚染土の黒い袋を積みあげた仮置き場も街中のあちこちにあり、原発近くでは一面に広がる草はらの中に廃屋が点在し、帰宅困難地域の家々の前に立入禁止のフェンスが立ち並ぶ様子はショックで、原発も自在にしようとする人間のおごりを感じました。しかしながら、街中では人々の普通の暮らしが営まれていて、菜の花畑の風景に救われた気持ちです。

宿泊地の双葉屋旅館はまるで人々の行きかう宿場町のようで、多方面から集まった様々な職業の方々で賑わい、多種多様なお話を聞かせて頂きました。そして小高やこの地域に住み続ける方々からは、自分たちの暮らしをより良く変えていこうとする力強いエネルギーを感じました。

私の役目はこの経験を他の人に伝えることだと考え、帰った翌日さっそく写真付きのレポートを作成して職場や友人に話をすると、驚きと同時に「福島は大丈夫なの？」という答えが返ってきて「皆さん普通に暮しているんだよ」と言うのが精一杯でした。やはり自分の目で見ることが大切なのだと感じました。

次は私が友人を誘ってまた参加したいと思います。本当に勉強になり楽しい4日間でした。皆様ありがとうございました。

＜JR 常磐線小高駅前　双葉屋旅館にて＞

講演会「**原発のない世界を求めて　～チェルノブイリから学んだ福島支援～**」

（神野 英樹）

＊「日本聖公会中部教区」からお誘いがあり、5 月 19 日（土）に講演を行いました。その講演内容（要旨）を紹介します。

1. 私たち「チェルノブイリ救援・中部」の救援活動

① 緊急支援（粉ミルク・医薬品・医療機器…etc.）
② 復興支援（移住村支援・病院の暖房／水道工事…etc.）
③ 自立支援（医師の招聘／派遣・菜の花プロジェクト…etc.）
④ 社会への提言（各種広報活動・情報リテラシー…etc.）

1990 年 4 月に発足してから四半世紀、「救援のデパート」と例えられた私達の活動も、目的を要約すれば上記の 4 つにまとめられる。特に、「自立支援」「社会への提言」は、ハードルは高いが極めて重要な課題であると認識している。

2. チェルノブイリから学ぶフクシマ支援

① 外部被曝の低減（汚染マップの作成）
② 内部被曝の低減（食品等の測定実施）
③ 自立支援（農業の復興・再生支援）

日本の原発の危険性を訴え続けてきた私達は、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災（福島原発事故）により打ちのめされた。しかし、私達は直ちに気持ちを切り替えて、「フクシマそしてチェルノブイリ救援・中部」に変身した。チェルノブイリから学んだ被災者支援のポイントは、上記の 3 つであった。これが、「とどけ鳥（放射能測定センター）＆農地再生協議会」を設立して、運営を続けている理由である。

3. フクシマの現状と支援のあり方（キーワード）

① 根強い「風評被害」と、足早に進む「風化」
② 「インフラ」が先か、「帰還」が先か
③ 「分断」と「絆」
　・家族（避難と帰還）
　・地域（コンパスで引かれた、10・20・30 キロ圏）
　・生産者と消費者
④ 原発事故に対する認識
　・「想定外」と「想定内」
⑤ ダブルスタンダード
　・「原子力緊急事態宣言発令中」と「アンダーコントロール」

★例えば家族は、「避難と帰還」の狭間で対立しているのではない。いつも綱を引き合っている。…「分断したのは誰か」ということを忘れてはいけない。
★例えば「生産者（農家）」は、長引く農産品の販売不振を「消費者」のせいにする。逆に「消費者」は、「生産者（農家）」が農産品を押し付けると言って非難する。
…本来非難すべきは、「諸悪（原子力ムラ）」であることを忘れてはいけない。
★「原子力ムラ」の関係者は、「事故は想定外」だったといって自分の責任を回避する。
「原発は再稼働しても大丈夫か？」と聞いても、「基準を厳しくしたから安全だ」と言って、「事故は想定外」を繰り返す。…責任を取ろうとしない人間を忘れてはいけない。

4. ダブルスタンダードの解消

① 空間線量率
・「20mSv/年間」…避難解除区域（帰還 OK。大人も子どもも日常の生活 OK。）
・「5mSv/年間」　…放射線管理区域（子どもの立入禁止・飲食禁止・宿泊禁止）
② 食品の放射能汚染基準
・「100Bq/kg」以下…食品の安全基準
・「100Bq/kg」以上…低レベル放射線廃棄物（ドラム缶に入れて厳重に保管）
③ 除染土の公共事業再利用
・「8,000Bq/kg」以下…廃棄物を安全に処理できる基準
・「100Bq/kg」以上　…低レベル放射線廃棄物（ドラム缶に入れて厳重に保管）

「事故前の基準」と「事故後の暫定基準」との間で、人々は何を信じればよいのかわからなくなっている。「アンダーコントロール」だと大見得を切るのであれば、事故前の基準に戻さなければならない。私達がそれを要求し実現して初めて、「安全・安心・安定」した生活が始まる。

6 月 9 日（土）のチェル救デーでも「南相馬の今」についてお話をさせていただきます。是非、足を運んでください（P3 参照）。

「粉ミルク支援金」で、孤児院や病院に粉ミルクが贈られました。

感謝状

「チェルノブイリ救援・中部」御中

コロステン地区議会管轄公共施設「コロステン地区一次医療・保健センター」当局を代表し、センター長ブハイオヴァ・ナタールカ・ヴィクトーリウナは、放射性物質による汚染の第 3 ゾーンに属しますコロステン地区の、スィンハイ村議会及びベフ村議会管内の計 8 世帯の貧困家庭への粉ミルクのご提供に対し、衷心より感謝の言葉を申し上げます。

ご理解と今後のご協力にご期待申し上げます。

敬意を込めて、センター長　N.V.ブハイオヴァ

感謝状

「チェルノブイリ救援・中部」御中

深く尊敬するお友だちの皆さん！

皆さんに感謝の言葉を申し上げます･･･無関心ではいられず、不運な人々に自らの心の温かさを与えることができる方々に、粉ミルクという形での無償のご支援をいただいたことに対して。

ご配慮とご同情、慈悲のお気持ちに感謝申し上げます。

皆さんのご支援は、単なる物質的な支援ではなく、私たちの施設の子ども達に未来があるということへの希望です。
そしてまた名誉であり、慈悲と善良さのお気持ちです。

すべての時代にわたって、人類はまさにこれらの原理を信奉してきました。

私たちと子ども達は、皆さんのことを大事に思っています。人間的な価値の宝庫を守り、それをさらに豊かなものにしている方々のことを…。皆さんのご善行が、百倍にもなって皆さんの元に返ってくることを信じています。

皆さんがゆるぎないご健康、ご家族のご多幸、お仕事のご成功に恵まれますように。敬意と感謝を込めて、

職員一同と孤児の子ども達に代わり

院長 ウクライナ国功労医師　S.ウルスレンコ

ジトーミル市　2018 年 4 月 3 日

【ジトーミル州立孤児院】

【ナロジチ地区中央病院】

感謝状

「チェルノブイリ救援・中部」御中

ナロジチ地区中央病院当局は、困難な生活状態にあり、チェルノブイリ原発事故の結果被災者となっている当地区の小さな住民のための粉ミルクに対し、衷心より感謝申し上げます。

対象は貧困層、子だくさんの家族、障がい者児童、シングルマザーなどの子ども達です。

皆さんの善良なお心、私たちと私たちの問題に対するご配慮、その問題の解決にあたってのご支援に深く敬意を表させていただきます。

皆さんのご関心は、賢明さ、人間性、誠実さ、手をこまねいてはいられないという高邁なお気持ちの表れです。

いつでもどこでも愛情の太陽が皆さんを暖め、皆さんのお宅が平和と幸運に輝きますように！

敬意と感謝の思いを込めて

ナロジチ地区中央病院 院長　M.I.パシュク

菜の花 花見会に参加して

（名古屋市　神野 綾）

わたしが「菜の花 花見会」に参加したきっかけは、面白い取り組みだなと思っていた「菜の花プロジェクト」の現場を一度見てみたいと思ったからです。

また東北地方自体なかなかご縁がなく、福島県の南相馬市は初めての場所でもあったので、今回の参加はいい機会だと考えました。

南相馬市の第一印象は、美しい場所だなというものでした。自然が多いとかねてから聞いていましたが、列車の車窓から田んぼの中を２匹の雉が駆けていく光景を眺めて、しみじみとその豊かさを実感しました。

幸い「菜の花 花見会」の当日はお天気がよく、ウクライナの国旗を思わせるような青空の下、一面の黄色い菜の花を楽しむことができました。菜の花畑の話は、以前から聞いていたのですが、いざ現地に来て目にすると、その広大さにとても驚かされました。これほどの広範囲で行われているとは想像していなかったからです。それは有志のみなさんが協力し、最初の一歩は小さくても、何年も地道に根気強く続けてこられた結果として広まっていったのでしょう。素晴らしいことだと思いました。

それから菜種油を採取する工程も、言葉や図にして説明するよりずっと手間がかかっているのが分かりました。それでも、商品として純度の高い菜種油を手際よく取るために、日々工夫と改善を加えているのを後で知って、ため息の出る思いでした。

昼食会では採取した菜種油の「油菜ちゃん」を使った料理をいただきましたが、「油菜ちゃばかりではなく、南相馬で採れる食材ひとつひとつが、とてもおいしいと感じました。

＜相馬農業高校生の発表＞

「菜の花 花見会」の後、相馬農業高校のみなさんから「油菜ちゃん」を二次活用し、ドレッシングを開発してきた経緯について聞きましたが、若々しいパワーを感じて頼もしく思いました。

「支援を受ける時期を経て、これからはわたしたちの力で復興に向けて進みたい。」という若い人たちの元気な姿は、明るい未来を感じさせるものでした。もちろん、菜の花プロジェクトはきっかけのひとつだったかも知れませんが、震災の傷や風評被害の煽りをうけながらも、前に進もうとする力を秘めているのは、やはり未来多き若い人たちなのでしょう。

今回、福島県南相馬市とご縁があった元々のきっかけが、震災と原発であるというのは皮肉なような気もしますが、それでも優しく強い人たちと、美しい自然に出会えたのは、本当によかったと思います。ありがとうございました。

＜LUSH の発表＞

連載 118

福島県の小児甲状腺がん（その 3）

小児甲状腺がんの原因は、事故直後のヨウ素 131 による初期被曝である。その被曝を正しく評価できるのは、尿や母乳などの放射能を測る方法で、通常「バイオアッセイ法」と呼ばれる。甲状腺に外から線量計を当てて測定する方法や、ホールボディ・カウンターによる測定は、バックグラウンドの影響を受けたり、セシウムの測定値から I-131 の推定をするなど間接的な方法で、正しい値は得られない。実は、福島原発事故後、国による母乳の I-131 の測定が行われたが、その評価結果を国は非公開にしたままである。しかし、その内容は驚くべきものだった。これがもし事実なら、福島の小児甲状腺がんは今後も更に増加し続けるだろう。

母乳からヨウ素 131 を検出

福島原発事故から間もない 3 月下旬に発足した市民団体「母乳調査・母子支援ネットワーク」は、いち早く母乳の検査をネット等で呼びかけ、4 月中旬までに集めた母乳 9 検体のうち、4 検体から 6.4～36.3Bq/Kg の I－131 を検出し、結果を 4 月 21 日に厚労省記者クラブで公表した。政府は、母乳から放射能が出るとは予期していなかったらしく、母乳検査は行っていなかった。慌てた厚労省は、それから母乳を集め検査した。4 月 24 日～25 日に集めた 23 検体のうち、7 検体から I-131 を検出し、結果を 4 月 30 日に記者発表した。「検出レベルは 2.3～8.0Bq/Kg と極めて低いので心配ない」という内容だった。しかしその裏では、具体的な被曝評価の計算が行われていた。国立放射線医学総合研究所は、ICRP（国際放射線防護委員会）の母乳に関するデータを基にモデルを構築し、母親がどれだけ I-131 を摂取すれば、母乳にどれだけ出るかを計算した。同時に、その母乳を飲んだ乳児の被曝線量も計算した。その結果は驚くべきものだった（左下の表 参照）。I-131 の問題は、半減期が 8 日と短く、体内での移行がセシウムとは異なり、甲状腺に集まる点である。ICRP によれば、体内に入った I-131 の約半分は 1 日で尿に排出され、母乳には最大 27%入る。それに半減期が加わる。時間が経てば検出は減るが初期被曝は大きい。

結果は非公開に

母乳中の I-131 が数 Bq/Kg でも、事故直後に母親が体内に取り込んだ I-131 は数十万 Bq に及ぶ。原因は、測定が体内摂取から 1 カ月後だったからである。その乳児の甲状腺被爆線量は 300～1200mSv である。

この結果は、環境省の専門家会議で報告されただけで一般には公開されなかった。公表すれば世論を騒がせると判断したからと思われる。

筆者は、偶然このデータを放医研の資料で入手した。

ここにも、事故直後の放射能測定が不十分だった影響が表れている。

今、「原発事故による被曝は少なく影響は小さい」というキャンペーンが盛んだが、被曝の影響はこれからである。

(2018 年 5 月 24 日　河田)

被験者	母乳の I－131 (Bq/Kg)	母親の I－131 摂取量 (千 Bq/Kg)	母親の甲状腺被曝線量 (mSv)	乳児の甲状腺被曝線量 (mSv)
A	3.5	439	189	524
B	3	376	162	449
C	8	1,000	432	1,199
D	2.2	276	119	330
E	2.3	289	124	345
F	2.3	289	124	345
G	2.3	289	124	345

会計からの『お願い m(_ _)m』と『お知らせ！』

夏のボーナスカンパのお願い m(_ _)m （兼松）

みなさま、嬉しい♪ 嬉しい♪**“ボーナス”**の時期が近付いてきましたね！（チェル救ではまったく無縁の言葉ですが）臨時収入のある方はそろそろ夏の計画をお考えの頃ではないでしょうか？ **ぜひその夏の計画に「チェル救へのカンパ」を入れてくださいませんか！！？** 昨年度は活動資金に底をつきかけましたが、みなさまからの年末カンパのおかげで何とか乗り切ることができました。心からお礼申し上げます。ありがとうございます。ですが…まだまだ財政状況が回復したとは言えません。課題はたくさんあると思います。やはり、助成金を獲得しにくくなってきたことは大きな影響を及ぼしています。今年度は、チェルノブイリの支援額を減額せざるを得ませんでした。それでも、昨年に近い支援は続けられるようホステージ基金と調整を行ってきました。一方、福島は現地で搾油所がオープンしたり、新しい油菜ちゃん商品の開発がすすめられていたり、注目も集まりながら活発に動いています。農業復興が着実にすすむなか、とどけ鳥の地道な測定活動も忘れてはいけません。空間線量が下がってきたから安心、ではなく土壌や食品の汚染についても目をむけなくてはいけません。そうした活動を根気よく続けることが、チェルノブイリ支援を長年続けてきたチェル救だからこそ、できる支援だと思います。**今年度は福島支援のために 445 万円必要です。チェルノブイリの被災者支援には昨年集まったミルク寄付も合わせて 150 万円を送ります。そのほか運営資金としての管理費も年間 300 万円ほどかかります。**

私たちが支援を続けていくためにはみなさまのお力が必要です！！

ぜひご協力をお願いいたします！ m(_ _)m

（同封チラシもあわせてご覧ください。）

しばらくの期間、会計担当を交代するお知らせ（8 月から） （兼松）

第 2 子 出産のため 8 月 11 日からお休みをいただきます。（復帰 2020 年 1 月）

しばらくの期間、会計を担当します m(_)m （大森 融）

兼松さんが休まれる期間、会計を担当させていただく、大森 融（おおもり とおる）です。

今年の「3.11 原発ゼロ NAGOYA アクション」の集会とデモに参加したことがきっかけで、チェル救とのご縁をいただきました。2 年くらい前から仲良くしてもらっている F さんに、当日のデモが終わったあと、事務局の山盛さんと一緒に話をする機会を設定してもらえました。そこで、チェル救の活動の 1 つ「放射能の空間線量測定プロジェクト」のことを知り、F さんからの勧めもあり、春の回（第 30 次測定隊）に参加させてもらいました。測定隊に参加したことで、原発事故後の福島の様子を直接見て・知る良い機会となり、また、放射能の空間測定や土壌測定を継続して実施して、記録を残すことが重要なことなどを知りました。チェル救の会計担当の方がお休みされることも、デモのあとのお話しの席でお聞きし、代わりの人を探していることを知りました。山盛さんに、「とりあえずチェル救の事務所に来てみない？」と声を掛けてもらい、早速翌週、事務所で事務局のみなさんとお話しをさせていただきました。面接？でもなく、チェル救でされていることをお聞きし、僕のことを少しだけお伝えし、「じゃー、大森さん、会計をお願いできますか？」みたいな感じでした（≧▽≦）。「僕で大丈夫なのか」と心配になりましたが、いろいろなご縁からチェル救まで繋げてもらえましたので、しばらくの期間ですが、お邪魔させてもらうことにしました。5 月から事務所で会計の仕事を中心にいろいろと教えてもらっています。1 年半くらいの期間ですが、どうぞよろしくお願いいたします m(_ _)m。

事務局便り

「後がない」と追い詰められ暴挙に及び、結果、懺鬼の念に耐えられず「事実を明らかにすることが償いの一歩」と、一人謝罪会見に臨んだ 20 歳のアメフト選手。誰になんと脅されようとそれに抗えなかった自分が悪いと自分を責める。片や国権の最高機関では、説明責任を放棄し、嘘重ねに終始する「えらい人達」。言葉は腐臭を放ち、そろそろ断罪のため、舌抜き閻魔大王が登場するや否や。閑話休題。@事務所。兼松さん、産休育休を迎えるにあたり、ピンチヒッターを探していたところ、ひょんなところで「みーつけた！」。その名も大森さん。河㊥、大森、山盛と合言葉よろしく、8 月半ばから 1 年半の事務局トリオとなる。兼松さんは、困った時の電話相談室長！ （山盛）

ありがとうという日々に。（小高工房 Odaka01　おだかぷらっとほーむ　廣畑 裕子）

小高一味「辛油(からゆ)」
【油菜ちゃんと
とうがらしのｺﾗﾎﾞです。】
左：辛みをを抑えたさらさらタイプ
右：辛い！からからタイプ

震災から七年が過ぎ　いくつもの朝を迎えました。そんな日々の中で、今でも私たちを思って祈っていてくれる人たちがいます。

日々変わっていく南相馬小高の風景の中に、その人達の思いが少しずつ溶けていくように新しい町が、作られていくような感じさえします。

どうしたら良いか迷っている時に立ち止まり、ひとつずつ振り返り、またひとつ重ねていく毎日になってきています。みなさんに助けられて、また一歩前に進んでいきたいと。ここまで来たことに、すべての人にありがとうを伝えたいです。

私たちの取組み『とうがらしプロジェクト』は、放射能汚染により農業に不安を抱える中でも、取り組めるものから挑戦するための、第一歩にしたいと考えています。

ここから私たち南相馬小高の人たちのあたらしい町作りが進み、ひとりひとりの「楽しい」を応援してほしいと思います。

編集後記

☆毎年この時期に思う。ゴキ●●は生態系にどのような役割を果たしているのか。3 億年前から棲息しているというのに、この厄介者扱い。失礼極まりないのは人間の方なのか。 （佳）

☆中日×広島戦のチケットを入手。3 塁（広島）側だったので、中日の選手の好プレーに思わず小さなガッツポーズ！ 周りには中日ファンもかなりいて、時折歓声が同調する。広島ファンの大声援には苦笑い。たまには野球観戦もいいよね（どっちが勝ったかは内緒）。 （美）

☆地球の恒久平和に向けて、極東・中東で最後の戦いが繰り広げられている。注目されていないが、マレーシアでは現政権の不正と汚職を批判したマハティール氏が首相に返り咲き、早速、公約通りに消費税を廃止した。1997 年の東アジア通貨危機の際、IMF（国際通貨基金）の押し付けたプログラムを拒否したことでも有名だが、旧支配体制の制定した悪法を、順次白紙に戻すと明言している。今の日本に必要なのは、彼のような首相である。 （J）

〒 456-0022　名古屋市熱田区波寄町 20-14
印刷 「エープリント」
TEL・FAX（052）871-9473